



つながる つたえる のびる 高ヶ坂小学校

2025年12月25日
町田市立高ヶ坂小学校
校長 岩崎 直美
学校だより 2学期末号

2学期の終わりに

校長 岩崎 直美

9月1日(月)から始まった2学期の学校生活が本日で終了しました。この間、79日。1学期よりも7日多い学期でした。(6年生は2日間学年閉鎖をしたため77日です。)1年生から6年生までの子どもたちがいつも元気に、そして笑顔で過ごすことができるように、保護者の皆様や地域の皆様のご理解、ご支援をいただきながら「チーム高ヶ坂」として取り組んでまいりました。

25日(金)朝、体育館で終業式を行いました。校長講話の最初に、前日24日(木)、「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」にお越しくださった「民族歌舞団荒馬座」の皆さんから、子どもたちをほめていただいた話をしました。「子どもたちはとても素直で、一緒に参加するときと観るときとの区別がきちんとできていて素晴らしい」という内容です。50分間の公演を通して、本校の子どもたちの良さを認めてくださったことがとても嬉しく、ありがたく、そして子どもたちを誇りに思いました。

講話の2つめは、令和7年度「心の輪を広げる体験作文」から小学生の部で最優秀賞に輝いた埼玉県の高5年生の作文を紹介しました。「心の輪を広げる体験作文」とは、内閣府が「障がい者週間」の取組の一つとして、毎年、障がい及び障がいのある人をテーマとして作文を全国から募集したものです。紹介した作文の作者名は下の名前だけ伝え、子どもたちには「題名を言わないので、考えながら聞いてください」と前置きして読み始めました。この間、1年生から6年生までの子どもたちは静かに聞いていました。読み終えてから、自分ならどんな題名にするのかを聞きました。1年生、2年生、4年生が手を挙げ、自分の考えを話しました。クイズではないので、発表したそれぞれの題名を褒めました。最後に本当の題名を伝えました。作文の最後は、次のように結んでいます。

今後私もそのような場面に遭遇した時は、自分にできることでお手伝いしたいと思います。

あの時はバタバタしていてしっかりとお礼が言えませんでした。

「人間の壁、とても大きく、高い壁でした。そして、あたたかい壁でもありました。本当にありがとうございました。」と伝えたいです。

子どもたちの中には周囲の方への気配りを行動にあらわしたことがある子がいます。困っている人を見かけたら、見て見ぬふりをするのではなく、勇気を出して声をかける子どもたちであってほしいと話しました。

校長講話のあと、表彰をしました。「青色申告の小学生税の書写展」、「歯科啓発標語の応募」、「習い事」です。いずれの取組も大変素晴らしく、いただいた記念品や参加賞、賞状等を笑顔で受け取る姿がありました。

2学期もホームページを通して、子どもたちの様子をお伝えしてきました。毎日多くの皆様がアクセスしてくださり、本当にありがとうございました。今後も学校と保護者の皆様、地域の皆様をつなぐために画像に気を付けながら配信してまいります。冬季休業中は、日直の教員が「冬休み日記」をお届けします。保護者の皆様、地域の皆様には、今学期も大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。子どもたちやご家族の皆様がお健やかに新年を迎えられますことを願っています。

どうぞよいお年をお迎えください。